

小児アレルギー専門医療チームとの連携で 新生児でも安全に使えるスキンケア製剤を確認

株式会社コーセー(本社:東京都中央区、代表取締役社長:小林 一俊)は、小児アレルギーの専門医療チーム(千葉愛友会記念病院、千葉県流山市)と共同で実施している「妊婦への教育介入による赤ちゃんのアレルギー発症予防に関する研究」において、当社が研究資材として提供した乳液型のスキンケア製剤が生後3日以降の新生児(生後28日までの赤ちゃん)にも安全に使用できることを確認しました。また、一般的に乾燥しがちである赤ちゃんの肌に対し、4ヶ月間の継続使用により肌の水分量が増加することが確認できました。

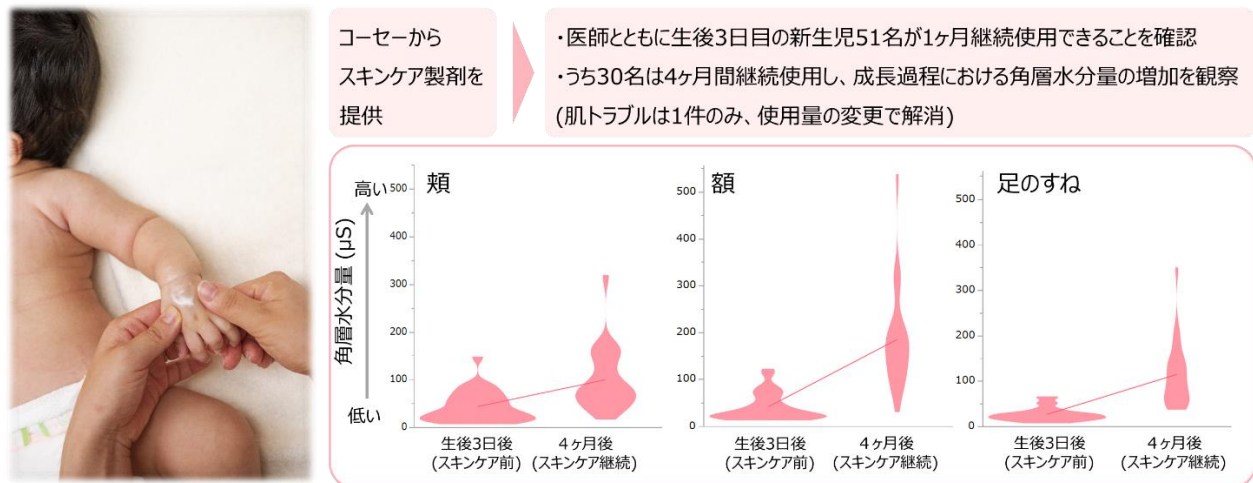


図1 新生児でも安全に使用できるスキンケア製剤の確認と肌の水分量の変化

背景

近年、子どもたちの成長過程において、適切なスキンケアを行うことの有用性が広く知られるようになっていきます。特に、乳児期のスキンケア習慣は、肌を健康に保つだけでなく、アトピー性皮膚炎や他のアレルギー予防にも繋がる可能性があり、生涯にわたるQOLの向上に資することが期待されています。当社では、2019年より医療機関の小児アレルギー専門チームと共同し、妊婦へのスキンケア習慣・栄養・生活環境に関する教育の実施が赤ちゃんのアレルギー予防に繋がる可能性を検証する研究に取り組んできました^{*1}。このたび、その研究過程で当社が提供するスキンケア製剤が生後3日後からの新生児でも安全に使用できる知見が得られました。

^{*1} 科学的に信頼性の高い研究結果を得るため、研究手法についてはUMIN臨床試験登録システム(ID番号:UMIN000034730)ならびに、医学や健康科学領域における臨床試験に関する国際学術誌Trialsにて公開しています(<https://doi.org/10.1186/s13063-019-3797-2>)

新生児でも安全に使えるスキンケア製剤を確認

臨床研究に参加した新生児のうち89名が、当社から提供したスキンケア製剤を用いて生後3日目から家庭でのスキンケアを開始しました。89名中51名は全身に週5日以上、1ヶ月間使用を継続し、そのうち30名は計4ヶ月間使用を継続しました。使用期間中に当社が提供したスキンケア製剤が原因となった皮膚の赤みと湿疹の発生は1件にとどまり、医師の診断と指導により、スキンケア製剤の使用量を減らすことで、肌トラブルは改善されました。なお、継続しなかったいくつかの家庭に理由の聞き取りを行ったところ、使い切った後に

新しい製剤を受け取りに行く時間がないなど、肌トラブルによるものではないことが確認できました。以上の結果から、今回提供したスキンケア製剤は新生児期の赤ちゃんが安全に使用できるという結果が得られました(図1)。

4ヶ月の継続使用で新生児の肌の水分量の増加を確認

新生児の肌は、水分量が少なく乾燥しやすいことが知られています。今回、実際に生後3日目の新生児の肌の水分量を当社が保有する成人のデータ(20~60代の219名、平均年齢37.5才、男女比1:2)と比較してみると、新生児の肌の水分量は成人の約3~4分の1程度であることが分かりました(図2)。

このように乾燥しやすい新生児の肌に対し、今回の研究において提供したスキンケア製剤を4ヶ月間継続して使用した赤ちゃんは、身体の各部分で水分量が増加していることが分かりました(図1)。

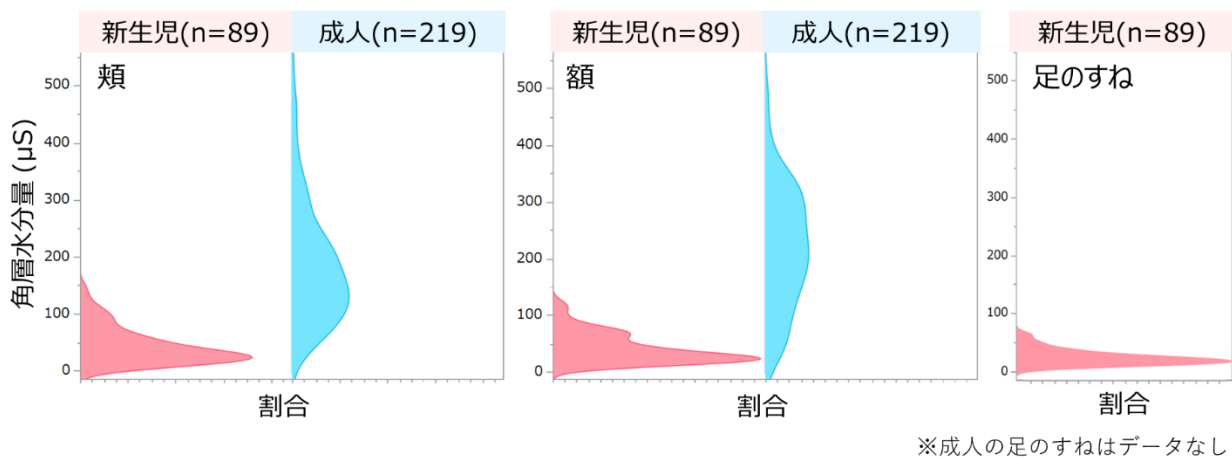


図2 新生児と成人の肌の水分量の比較

25年以上にわたる敏感肌に向けた研究をスキンケア製剤に応用

本試験で提供したスキンケア製剤は、25年以上になる当社の敏感肌に向けた研究が応用されています。1995年に発売された敏感肌向けのセブンフリー処方(刺激になりうる7つの成分種をできる限り低減した処方)を実現した製剤・保証研究をはじめ、2002年には皮膚科医と連携してアトピー性皮膚炎の寛解期(一時的に症状がおさまっている状態)の患者でも使用できることを確かめたスキンケア処方を開発しました(図3)。このような研究知見を応用したのが今回のスキンケア製剤であり、生まれたばかりの新生児の肌でも安全に使用できることを確認することができました。



図3 これまでの敏感肌に向けた研究と現在の臨床研究とのつながり

今後の展望

本研究により、生後 3 日以降の新生児でも安全に使用することができるスキンケア製剤を、医療機関と共同で確認することができました。この研究成果は今後のスキンケア商品に応用されます。今後も新生児や子どもの皮膚に関する研究を継続し、スキンケア習慣と子どもの成長過程における QOL やアレルギー予防への影響を明らかにしていきます。また、そうして得た知見をスキンケア製剤の研究と連携させ、一人ひとりのお客さまが安心して使える商品の開発に繋げていきます。